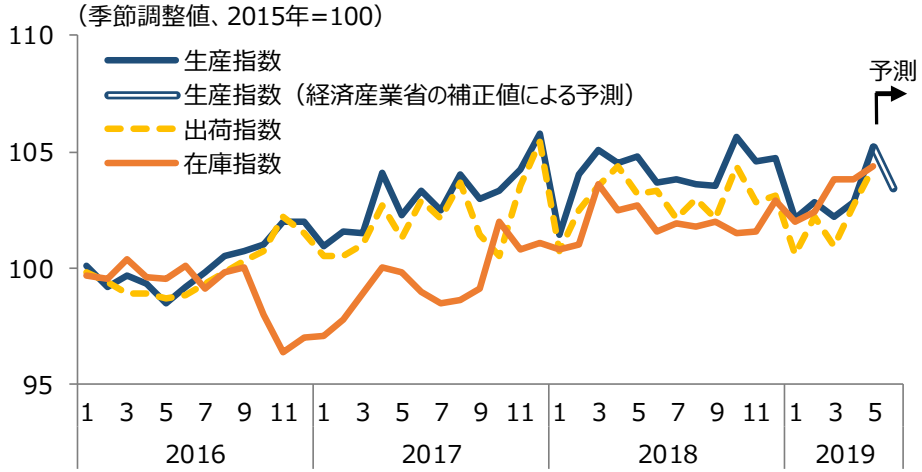
日本

鉱工業生産指数（2019年5月）

輸出の減少基調を背景に、生産指数は低調な推移が継続

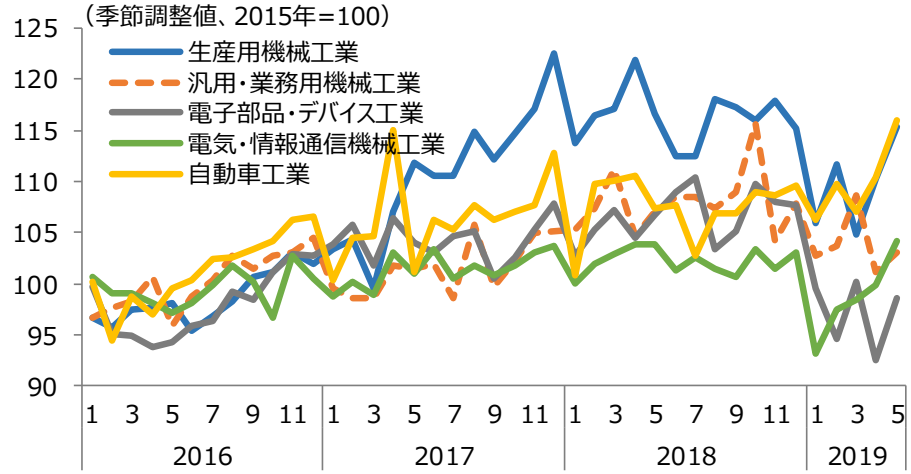
政策・経済研究センター
田中康就
03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 業種別の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 5月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+2.3%と、2ヶ月連続で上昇した。
- 業種別にみると、15業種のうち13業種が上昇した。生産に占めるウェイトが大きい自動車工業（季調済前月比+5.2%）が高めの伸びとなり、全体を大きく押し上げた。19年10月に予定される消費税増税前の駆け込み購入に備えた増産も、生産の押し上げ要因となった可能性がある。18年末以降弱い動きが続いていた半導体製造装置や金属加工機械も5月は上昇に転じ、生産用機械工業（同+4.6%）は2ヶ月連続で上昇した。
- 電子部品・デバイス工業（同+6.6%）は、5月は増加となったが、世界的な半導体関連需要の調整が下押し圧力となり、振れを伴いつつ低下傾向にある。また、汎用・業務用機械工業（同+1.9%）も小幅な増加となったが、中国などアジア向け輸出の減少や、在庫調整圧力の強まりが生産抑制要因となる傾向が続いている。
- 製造工業生産予測調査によると、19年6月の生産は季調済前月比▲1.2%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同▲1.7%程度であり、6月の生産は減少が予想される。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、18年に比べて低い水準で推移している。
- 先行きの生産指数は、国内向けでは消費税増税前の駆け込み生産が予想されるものの、海外向けでは米中貿易摩擦などによる中国経済の減速を背景に、中国向けを中心に減少が予想されるため、低調な推移となろう。
- 生産の下振れリスクとしては、①米中貿易摩擦の激化を背景とする世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及による国内需要の悪化、③日米物品貿易協定（TAG）の交渉による対米輸出環境の悪化、が挙げられる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.